

透析患者の動脈硬化と Hepatocyte Growth Factor

渡辺内科クリニック 齊藤浩次・渡辺幸康

【はじめに】肝細胞増殖因子(hepatocyte growth factor : HGF)は 1984 年中村らによってラットの血小板より精製され, 1989 年クローニングされた。HGF の生理活性は肝細胞増殖活性以外に, 多数の上皮細胞, 内皮細胞, 一部の間葉系細胞に増殖活性作用を, さらには細胞分化, 細胞遊走, 器官形成, 抗アポトーシス, 血管新生作用をもつことが明らかとなり, 近年, 再生医療の分野で応用されつつある。しかし, 血液透析患者の動脈硬化性病変と HGF との関わりについてはなお不明の点が多い。今回われわれは血液透析患者において, HGF と各種動脈硬化マーカーとの臨床的関連性について検討した。

【対象および方法】血液透析患者(HD 群) : 93 例、非血液透析患者(non HD 群) : 44 例について, 大動脈石灰化係数(AACI)・頸動脈エコー・ABI フォルム等を測定し, 一般血液・生化学検査, ELISA 法で血清 HGF 濃度を測定し, 動脈硬化性病変・動脈硬化マーカーとの関連性について検討した。

【結果】HD群はnon HD群にくらべて, 血中HGF濃度は高値を示し, HD群では血清HGFはba PWV, AACI, plaque score(Max-IMT), 透析歴と正の相関を示した。また, 血清HGFは血清脂質T-CHOL, LDL-CHOLとは負の相関を, α_2 -MGとは正の相関を示した。また, HD群での重回帰分析ではHGFはba PWV, AACI, plaque scoreのそれぞれ有意な独立した因子として採択され, ROC解析でもHGFが動脈硬化を予測する上で有用であることが判明した。

【結論】非血液透析患者にくらべて, 血液透析患者では血清 HGF は高値を示し, 動脈硬化の進展度と有意な関連性が認められた。